

丸、福寿丸のある尾根にはさまれた清水谷が追加指定された。

清水谷は、「小谷城跡絵図」（小谷城址保勝会所蔵、湖北町所蔵など）などによれば、重要な小谷城関連施設があった場所で、谷の最奥部に浅井氏歴代の居館であった「御屋舗」があり、これより谷の入口に向かって「木村屋敷」「山城屋敷」「大学ヤシキ」「遠藤屋敷」などの地名が伝えられている。また、清水谷の入口には「知善院」、中ほどに「天徳寺」、谷奥には「徳勝寺」「観音寺」という寺院の地名が伝えられている。知善院、徳勝寺は小谷城落城の後、羽柴秀吉によって長浜に移され現在に至っている。さらに、絵図には「此内不残屋敷跡」とも記されている。

このように清水谷は、山上の小谷城に対して城下の居館に相当する部分であり、浅井氏や重臣の屋敷、寺院などから形成される浅井氏家臣の日常の生活の場であったと考えられる。また、清水谷の入口を境に、南側の平地には城下町が形成されていた。

一九九五年度より、史跡小谷城跡清水谷地区の史跡整備を行なうため発掘調査を行なっているが、一九九八年度には、清水谷の入口に位置する「伝知善院跡」の調査を行なった。

「知善院」と呼ばれる区画は面積一六二六㎡で、現在確認できないが、以前は高さ約一mほどの土塁によって囲まれていた。調査はこのうち清水谷の入口で堀跡に接する八〇〇㎡の範囲で行なった。

調査の結果、地表から四〇cm～六〇cmの深さで、建物・土塁・溝、

庭園と考えられる池の遺構が確認された。

庭園と考えられる池の遺構は大小の石を組み合わせたもので、長さ約一〇m幅約四m、残存する深さ約三〇cmである。この遺構から陶器・土師質土器・鉄砲の弾・鎧の小札・塔婆・笹塔婆・柿経が出土した。

笹塔婆・柿経は庭園の池に投げ入れたように散乱して出土した。また、建物跡付近からは、金銅製の小椀が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ☐ (梵字) 元龜三年
☐ 為正讀禪定
七月×

(2) × 屬七世父母法界 ×
七月十×日
(四)

(3) ☐ 能於後世受持是經者我遣在人中行於如來事
(282) × 26 × 0.5 061

(4) ☐ [若カ] 於一劫中常懷不善心作色而罵佛獲无量重罪
(276) × 26 × 0.5 061

(5) ☐ 有讀誦持 是法華經者 須臾加惡言 其罪復過彼
(283) × 25 × 0.5 061

(6) ☐ [人カ] 求佛道而於一劫中合掌在我前以无数偈讚
(283) × 25 × 0.5 061

- (7) ×讚佛故得无量功德歎美持經者其福復過彼」
(276)×23×0.5 061
- (8) 〔八カ〕
□十億劫以最妙聲及與香味觸供養持經者」
(282)×26×0.5 061
- (9) ×〔是カ〕供養已 若得須臾聞 則應自欣慶 我今獲大利」
(222)×25×0.5 061
- (10) ×〔今カ〕告汝我所說諸經而於此經中法華最第一」
(240)×25×0.5 061
- (11) ×〔時カ〕佛復告藥王菩薩摩訶薩×
(158)×27×0.5 061
- (12) ×〔量カ〕千萬億已說今說當說而於其中此法」
(247)×26×0.5 061
- (13) ×經最為難信難解藥王此經是諸佛秘要」
(255)×26×0.5 061
- (14) ×〔藏カ〕不可分布妄授與人諸佛世尊之所守」
(245)×26×0.5 061
- (15) ×昔已來未曾顯說而此經者如來現在」
(243)×24×0.5 061
- (1)(2)の二点は、同一地点から柿経と重なって出土した笹塔婆である。元龜三年（一五七二）は、姉川の合戦の翌々年にあたり、陰暦七月一四日は孟蘭盆で、織田信長と対陣するなか、小谷城内でこの

ような法要を行なっていることは興味深い。

(3)以下の柿経は、保存状態の良好なもので幅二三mm長さ二八一mm、厚さ〇・五mmで法華経が墨で書かれている。出土総数一一四点である。ここにあげたのはその一部、巻第四中の「法師品第十」を書写したものである。

（山崎清和）



(1)



(2)